

H O K K A I D O I H O

# 北海道医報

9

月号

2022.9.1  
第1248号



北海道 美の遺産 横山 松三郎 『菊』 北海道立函館美術館 所蔵

# CONTENTS

北海道医報  
令和4年9月1日 第1248号

指標／都道府県医師会主導の警察活動に協力する医師の部会（仮称）  
設置と全国組織化について……………鈴木 伸和……………3  
医の倫理綱領……………6  
速報／令和4年度北海道医師会賞受賞者決定！……………7  
北海道医師会役員退任のご挨拶……………8  
北海道医師会役員就任のご挨拶……………9  
報告／令和3年度地域保健等に関する調査研究助成について……………10  
生涯教育シリーズXXIII／実地医家に聞いて欲しい循環器診療のトピックス  
腫瘍循環器学 注目です……………井上 仁喜……………12  
北海道医歌人会詠草……………18  
税務相談室／青色申告……………中村 孝一……………19  
医師のための法律相談コーナー／近時の医療判例（29）……………矢吹 徹雄、小田嶋真悟……………20  
若手医師コーナー／Spirits 若手医師リレーエッセイ……………十良澤太門……………23  
会員のひろば……………斎藤 泰一、中野 達、須田 祐之、山内 修、高田 剛太、  
大黒 慎二、立石 晋、山岸 眞理、中野渡正行……………24  
ポラリスを仰ぐ北の大地から……………牧野 裕樹、中條 俊博……………32  
大通公園を望む窓辺から……………三戸 和昭、沖 一郎……………33  
日本医師会生涯教育講座等開催情報……………35  
中央**35** 道南**36** 後志**37** 日胆**37** 空知**37** 道北**38** 北見**38** 道東**38**  
その他（学会・医会・研究会等）**39**  
日医認定産業医制度研修会開催一覧……………40  
訃報……………42  
道医の動き……………42  
新規指定医療機関……………43  
会議室／第9・10回常任理事会……………44  
売貸医院・医師招聘情報……………48  
道医師国保の頁……………52  
季節風／超高齢化社会とACP……………橋本 洋一……………58  
お知らせ  
新型コロナウイルス感染症に関する医療機関への助成金等に関する不審な勧誘等**11**／北海道医師会医師  
キャリアサポート相談窓口**11**／2023年版医師日記（手帳）の申込み**22**／第6回いのちを見つめるフォト&  
エッセー作品募集**34**／新型コロナウイルス感染症関連情報**34**／北海道内科医会ならびに日本臨床内科医  
会入会のご案内**41**／研修会等への託児サービス併設費用の助成**43**／「応急手当WEB」救急医療啓発パ  
ンフレットへのリンク依頼**46**／医師招聘に掲載をご検討中の医療機関の皆様へ**51**／アクションズ若手  
医師活動報告投稿大募集!!**51**／新型コロナウイルス感染症等感染防止対策実施医療機関「みんなで安心  
マーク」の発行**56**／グループ保険のご案内**57**

北海道医師会会員数 8,156名 (+5) うち日本医師会会員数 5,717名 (-10)  
A 2,362名 (-4) B2 4,621名 (+11) C2 128名 (+2)  
B1 618名 (-1) C1 83名 (+3) C3 344名 (-6)  
令和4年7月31日現在 ( ) 内前月比

## 作品紹介

よこやままつさぶろう  
横山松三郎 菊

1838（天保9）年～1884（明治17）年

択捉島生まれ。  
制作年不詳の作品。油彩、絹（45.5×30.4cm）。

江戸城を初めて写真に撮った人物。幕末・明治期に西洋の写真術や洋画法を研究し先駆的な活躍で多大な功績を残した芸術家。択捉島で生まれ、父の死後、家族と箱館に移り住む。1854年箱館にペリー艦隊来航、初めて写真を知る。1859年箱館が自由貿易港として開港、滞在中のロシア人から写真術や洋画法を学ぶ。1864年幕府艦船「健順丸」で上海へ渡航、欧米文化の見聞

## 北海道美の遺産

写真・資料提供：北海道立函館美術館  
（函館市五稜郭町37番6号 0138-56-6311）

を広める。帰国後、横浜で下岡蓮杖に師事、印画法や石版術を習得する。1868年上野に写真館「通天楼」開く（後に洋画塾併設）。1871年太政官少史・蜷川式胤の依頼で旧江戸城の写真撮影。1876年陸軍士官学校教官となり軽気球から日本初の空中写真を撮影。1880年写真と油絵を合わせた「写真油絵」法を完成させる。

西洋画の遠近法で画面に奥行きを生み、陰影法でモチーフの立体感を表し写実性を追求している。花卉や葉の裏と表は、油絵具を重ね合わせて深い色味と質感を出している。大きく余白を残す構図は、余白「間」の余韻・余情ともいえる日本画の表現が生かされている。和と洋が織り成す美しさは眼福の極みである。